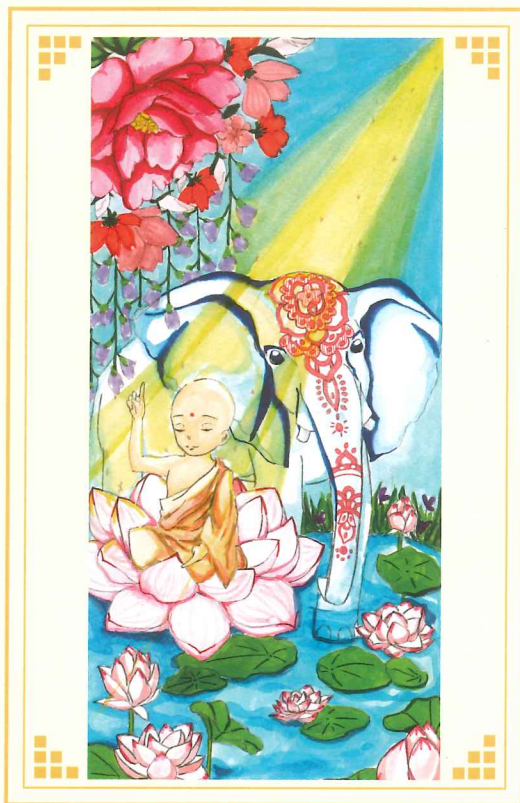


2023年度

大谷中学校
大谷高等学校

釈尊降誕 花まつり



日 時 2023 (令和5) 年5月9日 (火) 高校1.2限 中学3.4限
会 場 大谷学園講堂

「お花まつり」から学ぶ命の大切さ 大谷中学校・高等学校 校長 萩原 英治

「お花まつり」は世界の各地域で古くから行われている行事です。日本では西暦606年の推古天皇の時代に初めて行われました。お釈迦様の誕生を祝い、お釈迦様の智慧と慈悲の教えを信じて、日々精進努力していくことを誓う日です。

お釈迦様は今から2500年ほど前に、現在のネパール地方で、釈迦族の王子としてお生まれになりました。お釈迦様は生まれてすぐに、四方に七歩ずつ歩み、右手で天を、左手で地を指して「天上天下、唯我独尊」と言われたと伝えられています。このお言葉は「人は誰でもこの世に一人だけであって、他の誰とも決して代わることができないただ一人の存在である。生きとし生けるものは、全て尊い命を持ち、この世に生まれた者は皆平等である。」と解釈されています。

私たちは忙しい日々の中で、授けられた命についてはほとんど気にかけることなく、それぞれが思い通りの暮らしをしています。このような状況の中で、私たちは幸せにも、お釈迦様の誕生を祝う「お花まつり」に参加する機会に恵まれ、お釈迦様の大慈悲に感謝するとともに、一旦立ち止まって、心を清らかにして、「自分の命について」「周りの人々の命について」「命とは何かについて」改めて考えてみる機会を得ることができています。

現代の世の中は、残念なことに利己的な個人主義がはびこり、他者を尊ぶ気持ち、優しさ、思いやりといった、人間が本来誰でも持ち合わせている崇高な心が衰退していつているように思えてなりません。

私たちが常に心に留めておかねばならないことは、授かった自らの命に感謝し、一人ひとりが自分の命を大切にするとともに、他の人々の命も尊び、お互いに慈悲の心をもって、支え合いながら、心を豊かにして人生を歩んでいくことです。

皆さんが、日常生活の中で、お互いに尊重し合い、報恩感謝の念を礎に、「やさしく かしこく うつくしく」成長して、社会の一隅を照らす女性になってくれることを期待しています。

式典次第

1. 式典 献花……………宗教委員
灌仏……………宗教委員
三婦依……………全員で復唱（聖典P.4）
讃歌……………「清らかに飾れ」（全員で斉唱）（聖典P.71）
2. 学校長の挨拶 萩原英治 校長
3. 講話 大谷高校(京都)・光華高校(京都)宗教科講師 平原晃宗 先生
4. 讃歌 「花祭りの歌」（全員で斉唱）（聖典P.13）

式典終了後、感想文を書き担任に提出してください。式典当日聖典・筆記用具・花まつりパンフ・講話レジメを持参ください。

パンタカニ人

ラージャガハの町にマハー・パンタカとチュツラ・パンタカという兄弟がいました。
おじいさんは兄を連れてよくおしゃかさまのお話を聴きにきました。

やがて兄はおしゃかさまのお弟子（でし）になりました。おじいさんはおじいさんは喜んで許しました。兄は生まれつき賢（かしこ）く、このうえねつしんに努力したので、すぐに立派なお弟子になりました。

ある日、兄はふと弟のことが気になりました。迎えにゆくとおじいさんは細い目をもっと細くしていいました。

「お前が弟を迎えに来る日をわしは毎日まっていたよ」

「おじいさんは、弟子のぼくよりずっとおしゃかさまの教えが身についている。老いた自分のことより孫（まご）のほんどうの幸せを考えてくれたのだなあ」
兄はあつい心で弟をおしゃかさまのもとへ連れていきました。

弟は素直（すなお）な性格で、骨惜（お）しみをせず毎日のつとめをはたしました。

ところがひとつだけ困ることがありました。暗記することが大の苦手でした。

弟はお弟子のだけれど知っている短い教えの詩を覚えたいと思っていました。

必死の努力をしてやっと初めの一行を覚え、二行目にとりかかると、もう前の行を思い出さずことができません。

始めてから、もう四カ月が過ぎました。

初めの間は弟をかわいそうに思っていた兄も、だんだんいやになってきました。

お弟子のだけれど、弟をばかにしたり兄を笑いものにしてはしませんでした。しかし、かえって兄は落ちつきませんでした。

「心の中でぼくたちをあざわらっているかもしれない。こんなことなら弟を連れてくるのはなかった」

兄の心にそんな想いがちらつきかけたころでした。町の医者がおしゃかさまとお弟子たちを食事に招待したいといっていました。

弟子の人数を知らせるのが兄の役目でした。兄は、弟を数にいけないで報告し、弟を呼んで、こつそり家に帰るようにいいつけました。

弟は悲しくて泣きました。物覚（ものおぼ）えが悪いのは確かですが、おしゃかさまを敬う気持ちが強く、ここを出ていくのが辛（つら）かったのです。

弟が泣きながら歩いているとおしゃかさまが、わけを尋ねました。弟が涙をふきふき事情を話すと、おしゃかさまはやさしくいきました。

「パンタカよ、泣くことはない。だれにでも苦手なことはあるのだよ。反対にだれにでも得意なことがあるものだ。パンタカは何が得意かね」弟は心が少し安らいで、ゆっくり考えました。

「はい、わたしは掃除が好きです」

弟が明るい声で答えると、おしゃかさまはわたらの真つ白い布をわたしました。

「では、これで壁をみがいておくれ。みがきながら、ちりをはらい、ちりをはらいと、くりかえしてごらん」

弟はわき目もふらず自分の部屋の壁をみがきました。

次の日、おしゃかさまと弟子たちは医者の招待を受けにきました。その席でおしゃかさまはおつしやいました。

「弟子がひとり足りないようだが…」
兄が答えました。

「はい、弟はあまりにも物覚えが悪いので家に帰しました」
おしゃかさまはおつしやいました。

「わたしの弟子の中に、欠点のない者がいるだろうか。また欠点のないものに私の教えが必要だろうか。チュツラ・パンタカを迎えにいきなさい」

兄はたちまちあやまらに気づいて、弟を迎えにいきました。するとむこうから、ろろろと声が流れてきます。

「ちりをはらい、ちりをはらい…」

まさしく弟の声ですが、おざおざと昨日までの声ではありません。

戸を開くと弟は輝くばかりの顔でひたすら壁をみがいています。兄は思わず合掌していました。

「法句経註釈（はつききょうちゅうしゃく）」
『仏典童話』（東本願寺出版部発行）より転載

表紙の絵は 宮井 杏香（高2・E組）さんの作品です。毎年「花まつり」の絵を募集しています。優秀作品は大阪府仏教関係学校連合会の花まつりで表彰されます。生徒の皆さんはふるって応募下さい。作品テーマ おしゃかさまの誕生（B5の紙に書く）
メ切・提出先 二学期終了までに中高宗教主任まで 来年度は、しおり用の絵を募集します。

13時まで事務所前にも「誕生仏」をお祭りしてあります。休み時間などを利用して灌仏してください。